

# 令和3年度 子どもゆめ基金20周年記念事業 とかが森へレッツゴー（1年目）

## 1 事業概要

体験活動の重要性を広く普及・啓発するため、「とかが森こども冒険プログラム」を通して自然体験に親しむ機会を提供し、参加者の自己成長を図る。



## 2 事業の目的（ねらい）

- ・五感や身体感覚を伴う「とかが森こども冒険プログラム」を通じて、自然体験に親しむ。
- ・事業後の探求心や学びにつながる教材を通じて、自然体験活動を楽しめるよう普及・啓発する。

## 3 企画のポイント

「ちよつとだけ、自然の中へ」をキャッチコピーに、未経験でも短時間で安全に体験できる「セルフガイドシート」と体験後の学びにつながる動画や教材を活用し、体験活動の普及・啓発をする。

## 4 場 所 国立大洲青少年交流の家 鶴ヶ森こども冒険ゾーン

## 5 期日・テーマ・対象・参加人数

回	テーマ	日程	対象	参加人数
1	自然体験	11月22日(月)14:30~16:30	放課後児童クラブ1組	17名：小学生15名・引率者2名
2	歴史体験	11月30日(火)10:00~11:30	放課後児童クラブ1組	11名：小学生9名・引率者2名
3	英語体験	12月4日(土)10:00~11:30	小学生とその家族等5組	小学生5名・幼児1名・乳児1名・保護者5名
4	英語体験	12月4日(土)13:30~15:00	小学生とその家族等5組	小学生7名・幼児2名・乳児1名・保護者8名

## 6 活動内容・講師・参加者の声

### 【1】チャレンジハイク 講師：(一社)ノヤマカンパニー 加藤 雄也 氏

たんけんマップを手に見つけた自然物の解説を聞きながら、「鶴ヶ森城跡」をめざした。

満足：100%「とかが森の中を初めて歩いて城跡からの眺めはとてもきれいでした。」

### 【2】昔の道具パズル 講師：伊方町立町見郷土館長兼主任学芸員 高嶋 賢二 氏

冒険ポスト「昔の道具」探しと城跡の解説を聞きながら、大洲城が見える頂上まで登った。

満足：100%「昔のことがよくわかりました。えど、めいじ、かまぐらのこともわかりました。」

### 【3】時めく絵巻物めぐり 講師：愛媛大学英語教育センター 教授 中山 晃 氏

絵巻物パネルをめぐる中で、LとRカードを探した。「オンライン・プチ講座おうちで楽しむ英語体験」では英語でペーパークラフトや発音を練習した。

満足：66.7% やや満足33.3% 「LとRの発音を家庭でやってみたい。宿泊もしたい。」

### 【4】えいご冒険ミニ図鑑 講師：愛媛大学英語教育センター 助教 イアン・ダウナー氏

森に隠れた「A」を探し、図鑑を完成した。「オンライン・プチ講座おうちでできる発音練習」では、冒険にまつわる英単語でフォニックスによる発音を練習した。

満足：50% やや満足50% 「オンラインでの外国の先生との会話は楽しい。次はレベルが高い内容をしたい。」

## 7 事業の成果と課題

- ・「少しの体験」でも達成感を得られる自然体験へのきっかけと事後学習動画と教材を提供できた。
- ・「セルフガイドシート」の活用で、ルールやマナーが徹底でき、安心かつ安全に実施できた。
- ・異年齢や習熟度の違いへの対応とねらいに対する活動内容の時間配分に工夫が必要である。

(事業担当者)